

# Japanese- Language Education Overseas



ノボシビルスク国立大学

## 海外における日本語教育

より多くの人々に日本語を学ぶ機会が与えられるように、そして、日本語学習を長く継続できるように、日本語をより学びやすく、より教えやすいものとするため、日本語教育の基盤や環境の整備を行います。また、各国・地域の政府や自治体、教育機関等と連携して、それぞれの教育環境、教育政策、学習者の目的や関心に十分に対応した事業を行います。

## 海外における日本語教育事業の概要

### 海外における日本語普及のための基盤・環境の整備

日本語を更に多くの人々に学んでもらえるよう、日本語を世界のどこにおいても学びやすく、教えやすいものとするために、日本語教育の基盤や環境の整備に向けた事業を行っています。

>>>P.21

### 国・地域の事情に応じた日本語普及

教育環境、学習者の目的や関心、日本語の普及を図る上での課題は、国や地域によって、きわめて多様です。それぞれの国や地域の実情に合わせた日本語教育の支援を進めています。

>>>P.25



「JF日本語教育スタンダード」の活用推進

日本語専門家の海外派遣

JF日本語講座

日本語教育支援プロジェクト

インターネットを活用した教育ツール

経済連携協定(EPA)に基づく看護師・介護福祉士候補者の日本語教育

日本語能力試験(JLPT)

海外の教師・学習者を対象とした研修



# 海外における日本語普及のための 基盤・環境の整備

## 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

言語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めていくためには、その言語を使ってどんなことができるかという「課題遂行能力」の向上と、様々な文化に触れることで視野を広げ、いかに他の文化を理解し尊重するかという「異文化理解能力」の育成が重要です。この理念のもと、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールである「JF 日本語教育スタンダード」(以下、JF スタンダード)を開発し、その活用推進に向け、日本国内外でのセミナー、研修会を通して、幅広い情報提供と利用方法の紹介などを行ってきました。

2014年度は『JF 日本語教育スタンダード 2010』第3版第1刷を対外発表し、より広い範囲の方々に JF スタンダードを知ってもらうためのパンフレットも制作しました。

また JF スタンダードに準拠し、教師が各教育現場に合わせて「口頭でのやりとり」能力を測ることができる「ロールプレイテスト」を開発し、JF スタンダードのウェブサイト上で公開しました。同ウェブサイトでは、マニュアルのほか、テストの進め方動画、モデル音声、13 言語のロールカードを掲載し、テスト実施者の利便性にも対応しています。

更に「みんなの『Can-do』サイト」には、162 件の新たな Can-do (JF Can-do72 件、まるごと Can-do90 件)を追加し、同サイトのデータベースを拡充しました。

そのほか、JF スタンダード普及に関連するセミナー、ワークショップ、調査研究、シンポジウム等に対し助成を行い、それらの事業において JF スタンダードの具体的な活用方法・事例を説明・紹介するための講師派遣等も行いました。

## ■『まるごと 日本のことばと文化』市販化

JF スタンダードに準拠したコースブック『まるごと 日本のことばと文化』には、言葉と文化を「まるごと」、日本語を使った自然なコミュニケーションを「まるごと」、日本人のありのままの生活や文化を「まるごと」学ぶという意味が込められています。

2013 年に入門 (A1)、2014 年には初級 1・2 (A2) のレベルで、それぞれ「かつどう」、「りかい」の主教材 2 種を出版し、合計 6 冊のシリーズ教材になりました。教材の紹介や使い方のセミナーを国内海外の日本語教師向けに開催する等、普及活動にも取り組んでいます。

JF 日本語講座をはじめ、世界各国で『まるごと 日本のことばと文化』を使用した日本語教育が導入される機会も増え、普及が進んでいます。初中級 (A2/B1)、そして中級 1・2 (B1) の出版に向け、『まるごと 日本のことばと文化』の開発は今後も続きます。



『まるごと 日本のことばと文化』初級 1(A2) 刊行記念セミナー  
[東京] (2014 年 6 月 28 日開催)



『まるごと 日本のことばと文化』シリーズ  
(国際交流まつり 2014 @北浦和)



『まるごと 日本のことばと文化』  
初級 2(A2)「かつどう」「りかい」市販版



## JF 日本語講座

JF スタンダードに準拠した新しいタイプの日本語講座を実施し、より学びやすく、教えやすい日本語の学習モデルを提示しています。また言葉と文化の総合学習を重視し、日本語教育を通じた相互理解を推進しています。

国際交流基金は、海外での日本語教育現場における様々な要望に対応するため、それぞれの学習者層を対象とした日本語講座 (以下、JF 講座) の拡充を図っています。日本語学習の目的は、留学や就職という実利的な目的よりも、日本語そのものへの興味や、J-POP、アニメ・マンガ等のポップカルチャーを通して日本文化に親しみを感じ、日本語も勉強してみたいというのが近年多くなっています。

こうした現状を踏まえ、JF 講座では、JF スタンダードを取り入れた新たなカリキュラムを導入し、講座の充実と刷新に取り組んでおり、『まるごと 日本のことばと文化』を用いた、今まで以上に日本文化理解に重点をおいた授業が行われています。2014 年度には、国際交流基金海外拠点 22 ヲ所と、8 ヲ所の日本センターで JF 講座が開講され、のべ 2 万 1 千人以上の学習者が受講しました。



JF 講座・中級クラス開講式 (ハノイ)

## ■文化日本語講座

JF 講座では、文化交流の総合的な実施機関である国際交流基金の特徴を活かし、単なる外国語教室という枠を超えて、音楽や映画、美術、料理等、様々な日本文化に触れるイベントや日本に関する最新の情報、文化交流プログラムを提供しています。こうした文化体験を通じ、受講者は日本という異文化への視野を広げ、日本語をより深く理解することができます。

たとえば、漢字、能、映画等、個別のテーマを取り上げる「日本文化アトリエ」、現地在住の日本人を交えた会話イベント「日本語しゃべろん」の開催 (以上パリ)、様々なゲームや文化活動を取り入れた日本語会話クラブ「日本語で話そう!」の新設 (マドリッド) があげられます。



文化日本語講座・日本料理体験イベント (ブダペスト)

## 日本メキシコ学院での『まるごと』拡大

国際交流基金メキシコ日本文化センターは日本メキシコ学院 (メキシコ市) と共催し、2013 年夏から同学院メキシココース高等部の一部で『まるごと』を用いたパイロット授業を開始しましたが、2014 年度には中学部の一部にも拡大することができました。

日本メキシコ学院は、同じ敷地内に日本人学校である“日本コース”とメキシコ人子弟を主な対象にした“メキシココース”が併存するユニークな学校で、授業はもちろん、運動会等を通じて、日々両コースの生徒間での国際交流が図られています。

同学院設立以来、メキシココースでは日本語が必修でしたが、当センターは同学院からの協力要請を請け、『まるごと』を使用することにしました。ただ『まるごと』は一般成人向けに制作されている教材であるため、研修やモデル授業を繰り返し、教案

づくりから授業の振り返りまで、同学院の先生と当センターの専門家は最初から試行錯誤の連続でした。

双方向の協力体制が機能し、今では予想以上の成果をあげることができています。『まるごと』を使用しているクラスでは、書道、ピクニック等多彩な日本文化の紹介もしてきました。国際交流基金の事業でメキシコを訪れるアーティストによるワークショップも行われています。『まるごと』を使用していない生徒から『まるごと』クラスの生徒にやっかみがでるほどでした。その結果、2015 年からは中学部・高等部全体 (26 クラス 360 人を予定) に拡大することが決まっています。

このプロジェクトにはまだ改善点が多く残されていますが、『まるごと』で授業を楽しむ生徒の表情を励みに、これからもより良い授業を作っていきたいと思っています。

## インターネットを活用した教育ツール

日本語教師向けに、教材作成のための様々な素材や、教師間の情報交換の場を提供し、日々の教育活動を支援するウェブサイトを開発しています。また、学習者向けには、それぞれの学習目的に応じて利用できるウェブサイトを開発しています。

### ■「まるごと+（まるごとプラス）初級1（A2）」を公開

「まるごと+（まるごとプラス）入門（A1）」の文法コンテンツを追加  
「まるごと+（まるごとプラス）」は、昨年の「入門（A1）」に続いて、2014年6月に「初級1（A2）」を公開し、継続して学習を続ける学習者の要望に応えました。「初級1（A2）」の「生活と文化」コンテンツは当初、日・英の2ヵ国語でスタートしましたが、学習者数が世界2位のインドネシア語版も制作し、加えて2014年10月には「入門（A1）」に「文法」コンテンツ（日・英・スペイン語）を追加しました。

また、「まるごと+（まるごとプラス）」を世界各地で快適に閲覧できるようにするため、CDNサーバーを導入し、アクセス環境を改善しました。



「まるごと+（まるごとプラス）」グローバルホーム



「まるごと+初級1（A2）」  
トップページ

「まるごと+初級1（A2）生活と文化」

### ■「NIHONGO e な（いいな）」さらに利用が拡大

「NIHONGO e な」は日本語学習や日本文化の理解を深めるために有用なポータルサイトです。2014年度もPCサイトに加え、iOS・アプリやAndroid・アプリの情報紹介を継続的に行った結果、利用者の数が増加しています。紹介記事はPCサイトが253件、アプリが44件となっており、世界中の日本語学習者から利用されています。今後も、役立つコンテンツ情報の配信を続けていく予定です。



「NIHONGO e な」トップページ

### ■WEB版「エリンが挑戦! にほんごできます。」

世界中で利用広がる  
全8言語で公開しているeラーニングサイトWEB版「エリンが挑戦! にほんごできます。」は、2014年度もさらに多くの世界中の日本語学習者に、エリンと一緒に楽しく日本語と日本文化に挑戦してもらえるよう、サイトの充実に努めました。

### ■「みんなの教材サイト」継続的に素材を追加

日本語教師を支援する「みんなの教材サイト」は、開設から12年目を迎えました。2014年度も利用者からの要望に応え写真・イラスト・読解素材を追加し、サイト内容の充実を目指しました。



WEB版  
「エリンが挑戦!  
にほんごできます。」  
トップページ

「みんなの教材サイト」：新規読解素材「日本では今」

## 日本語能力試験（JLPT）

日本語能力試験（JLPT: Japanese-Language Proficiency Test、以下 JLPT）は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験です。若年者から社会人まで幅広い層の受験者によって、日本語の実力測定、就職や昇進、大学への入学のため等、様々に活用されています。試験問題の作成と海外各地での試験実施は国際交流基金が、国内での試験実施は共催者である公益財団法人日本国際教育支援協会が行っています。

JLPTはN1からN5までの5つのレベルに分かれており、受験者は自己の日本語能力に適したレベルを受験することができます。N1レベルとN2レベルは「言語知識（文字・語彙・文法）・読解」と「聴解」の2科目、N3レベルからN5レベルは「言語知識（文字・語彙）」、「言語知識（文法）・読解」、「聴解」の3科目で構成されています。

### ■全世界で59万人が受験

2014年度の実施状況は次の通りです。  
・第1回（7月6日）  
海外23ヵ国・地域の105都市で実施。応募者約24.1万人、受験者約20.7万人。  
国内45都道府県で実施。応募者約7.1万人、受験者約6.6万人。  
・第2回（12月7日）  
海外65ヵ国・地域の208都市で実施。応募者約28.4万人、受験者約24.3万人。  
国内45都道府県で実施。応募者約8.6万人、受験者約7.9万人。

### ■実施の拡大

2014年度も実施国・都市が増えました。  
新規実施国：南アフリカ（ヨハネスブルク）  
新規実施都市：原州（韓国）、アルバイヘル（モンゴル）、コロンバス及びホルダー（米国）、グラナダ（スペイン）、ストラズブル（フランス）、アストラハン（ロシア）

### ■受験上の特別措置

JLPTでは身体などに障害がある方のために受験特別措置を行っています。受験者からの申請と医師による診断書に基づき、専門家の審査を経て、必要な措置を決定しています。主な措置の内容は、点字による出題および解答、問題用紙の拡大、拡大鏡の使用、試験時間の延長、聴解試験の際の補助器の使用、別室受験等です。特別措置により、国内外において第1回試験では78人、第2回試験では137人が受験しました。

日本語能力試験公式ウェブサイト上には、『日本語能力試験公式問題集』等の資料が視覚障害者向けの点字データでも掲載されています。

<http://www.jlpt.jp/tenji.html>

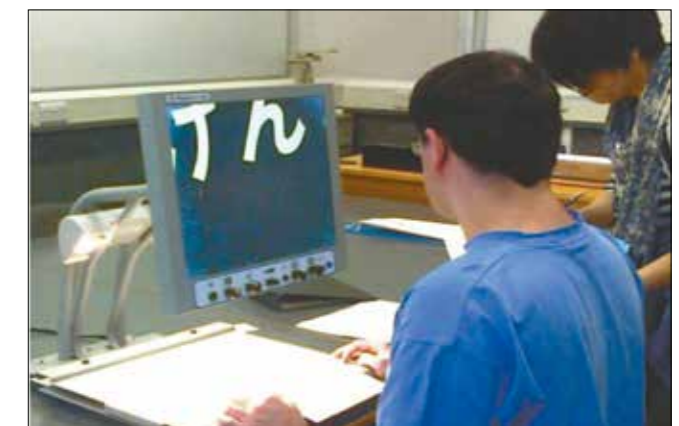
### ■JLPTによる認定の活用

約30年の歴史をもつJLPTは、国内外で、大学入試や卒業、留学、就職、昇進・昇格等にあたっての要件や基準として、ますます活用されるようになってきました。

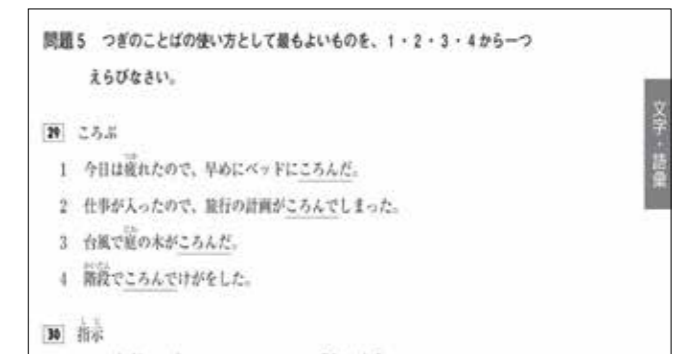
経済連携協定（EPA）に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムから来日する看護師・介護福祉士の候補者は、N5レベル程度（インドネシア、フィリピン）またはN3レベル（ベトナム）以上の認定が必要です。また、N1レベル認定者には、高度人材に対する日本の出入国管理上の優遇制度において15ポイントが付与されます。厚生労働省所轄の医師国家試験、准看護師試験などの受験資格の要件としてもN1レベルが活用されています。



試験開始を待つ受験者（ブダペスト）



受験特別措置により、拡大読書機（CCTV）を使用する受験者



日本語能力試験公式問題集（N3）より

## 国・地域の事情に応じた日本語普及

### 日本語専門家の海外派遣

#### ■ 世界40カ国で126人の日本語専門家が活躍

海外各国における日本語教育の定着と自立化の促進を目的に、各地に日本語専門家を派遣しています。

2014年度は40カ国に126人の専門家を派遣しました。派遣された専門家は、現地教師の育成、カリキュラム・教材の作成や教師間ネットワーク構築への支援、教室での日本語教授等、派遣先機関・国における安定的な日本語教育の実施や質的改善のための業務を行っています。

たとえば、現地の新教育カリキュラムに備えた教材の作成・ワークショップの実施（ジャカルタ、ベトナム）、受入国の教育省との共催による、日本語教師公務員採用予定者に対する集中研修の実施（バンコク）や、近い将来受入国の公教育において初めて日本語を母語としない日本語教師が誕生することを見据えた当該養成課程に在籍する学部学生を対象とした実習（ケルン）等を行いました。

### 日本語教育支援プロジェクト

#### ■ 世界127機関をつなぐ「さくらネットワーク」

JFにほんごネットワーク（通称：さくらネットワーク）は、世界各地の日本語普及と日本語教育の質の向上を目的とする、海外の日本語教育機関をつなぐネットワークです。国際交流基金の海外拠点に加え、周辺地域への波及効果の高い日本語事業を実施している機関・団体（大学や日本語教師会等）をメンバーとして認定しており、メンバー数は2008年3月発足時の31カ国39機関から、2014年度末には47の国・地域127機関にまで成長しています。

このネットワークのメンバーが申請できるプログラム「JFにほんご拠点事業（助成）」（通称：さくら中核事業）を通じて、メンバー所在国や地域への日本語の普及・拡大・発展につながる波及効果の高い事業を実施・支援しています。さらに、国際交流基金の海外拠点が無い国に向けた「日本語普及活動助成」プログラムにより、教材購入、講師謝金、スピーチコンテストや会議・シンポジウムの開催への助成を行う等、各国・地域のニーズに対応したきめ細かな日本語教育支援を行っています。

### 経済連携協定（EPA）に基づく 看護師・介護福祉士候補者の日本語教育

インドネシア、フィリピンと日本との二国間経済連携協定（EPA）に基づき、日本に受け入れる看護師・介護福祉士候補者378人を対象として、来日前の日本語予備教育事業（6ヵ月間）を両国で実施しました。事業の内容は基本的な文法・語彙・会話を習得する日本語プログラムから、日本の社会・生活習慣等の基礎知識を習得する社会文化理解プログラムまで多岐にわたります。候補者は、来日して病院や介護施設に配属された後は、仕事をしながら国家試験合格を目指すことになるため、効率的な学習習慣を身につけておく必要があります。そのため、本事業では自律学習支援にも力を入れ、候補者が自分の学習を計画し、振り返り、評価する訓練も行いました。



インドネシア教育大学



ヤンギェロン大学での国際合宿

### 海外の教師・学習者を対象とした研修

#### ■ 海外の教師を対象とした研修（日本語国際センター）

2014年度は、日本語国際センターが実施する16の研修プログラムに、53カ国・地域から498人の日本語教師が参加しました。

「海外日本語教師長期研修」は、若手外国人教師を対象とした6ヵ月の研修で、2014年度は29カ国・地域から57人の教師が参加しました。研修参加者は日本語や日本語教授法等の授業だけではなく、書道、茶道、浴衣着付け、学校訪問等の文化体験プログラム、日光や関西方面での地方研修を通じて言語の背景にある日本文化への理解を養います。研修参加者は研修終了後もSNS等を使って連絡を取り合っており、教育上の相談もしており、国を超えた日本語教師間のネットワークが構築されています。

日本語国際センターで研修を受けた日本語教師は、教育現場で活躍するほか、世界各国の教師会等でリーダーシップを発揮している人も多く、当センターは研修機関として海外でも高い評価を得ています。

#### ■ 日本語国際センター25周年記念事業

日本語国際センターは1989年にさいたま市（旧浦和市）に設立されて以来、のべ1万人を超える日本語教師を対象に研修を行い、また、時代の要請に応じた様々な学習教材や教師用の教材を開発してきました。

設立25周年を迎えた2014年、これまで支えてくださった地域の皆さまに参加していただけるイベントや、これまでのセンター事業を振り返るとともに、これから取り組むべき課題について考える、日本語教育に関する一連のシンポジウムを開催しました。

2014年11月29日、公益財団法人埼玉県国際交流協会と共催で、当センターを開放して「国際交流まつり@北浦和2014」を開催しました。当センターの活動について紹介するほか、長期研修・上級研修で来日している世界各国の日本語教師たちが、母国の紹介、歌や踊りの発表、研修で取り組んでいるプロジェクトや自国で使われている日本語教材についての説明などを行い、埼玉県民、さいたま市民を中心にのべ600人が来場し好評でした。

一方、2014年9月には、ASEAN5カ国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム）の教育行政関係者を迎えて、「21世紀の人づくりをめざすASEAN各国の教育最前線～中等教育の外国語教育が果たす役割～」と題したシンポジウムを実施しました。21世紀を担うグローバル人材の育成が注目される今日、各国はどのような教育政策・方針のもとで外国語教育に取り組んでいるのか、また日本語学習・日本語教育をめぐる状況はどうか、等について意見交換や考察が行われました。2015年2月には、シンポジウム「課題遂行を出発点とした言語学習デザインー『まるごと日本』の挑戦ー」を実施し、日本語教育関係者を中心に180人を超える来場を得て、活発な議論が展開されました。

このほかにも、講演会などを行い、これまでの25年、そしてこれからの日本語教育支援について考える節目の一年となりました。

日本語国際センターは、これからも研修事業や教材開発などを通して、世界の日本語教育の発展に貢献していきます。

#### ■ 海外の学習者を対象とした研修（関西国際センター）

1997年に大阪府に設立された関西国際センターでは、職業上、日本語能力を必要とする海外の専門家を対象とした「専門日本語研修」と、海外で日本語を学ぶ大学生・高校生等を対象とした「日本語学習者訪日研修」を実施しています。2014年度は、97の国・地域から548人が研修に参加しました。

「李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修」事業は第14回目を実施。そして、東日本大震災を受けて2011年に開始した「米国JET記念高校生訪日研修」事業では、全米各地から選抜された高校生32人が、JETプログラムにより来日していた米国人2名が亡くなられた石巻市などを訪問し、遺族や縁のあった人々の支援のもと、様々な交流活動に参加しました。

また、国際交流基金アジアセンターの「日本語パートナーズ」派遣事業の派遣前研修が始まり、ASEAN諸国の現地に派遣予定の140人に対して派遣前研修を行いました。

関西国際センターでは受託研修事業の拡大にも力を入れています。その一例として、2014年度は、サウジアラビアのキングサワード大学からの委託で、「キングサワード大学生訪日日本語研修」を初めて実施しました。本研修は、三菱商事株式会社から同大学に対する寄付金により実施されたものです。



日本語国際センター25周年記念シンポジウム  
「21世紀の人づくりをめざすASEAN各国の教育最前線」



キングサワード大学生訪日日本語研修（浅草）

### 国内連携による日本語普及支援

国際交流基金では2009年度より、日本語教師養成課程を有する日本国内の大学と連携して、日本語教育を専攻する学生をインターンとして海外へ派遣しています。2014年度は国内51大学から260人を派遣しました。

また、これと連動して、日本の大学からインターンを受け入れる海外の大学から、学部学生を招いて、関西国際センターで訪日研修を実施しています。この研修は、日本語学習や対日理解の機会を提供すると同時に、大学間の連携強化の支援を目的としています。2014年度は、「夏季特別」、「秋季」の計2回を実施し、のべ24カ国から73人が研修に参加しました。